

概要

【目的】戸籍事務に係る現状把握のための調査を通じて、戸籍謄本等を交付する側から見た戸籍謄本等の利用目的等を把握してきた一方、国民による戸籍謄本等の交付請求に係るニーズについても直接的に把握する必要があることから、戸籍に関する国民の意識調査を実施

【調査対象】性別（男、女）、年齢（20代から70代まで）、地域（北海道・東北、関東、中部・近畿、中国・四国・九州）、居住地域の人口レンジ（国民における公的施設やコンビニエンスストアまでのアクセス性に係る観点）の四つの観点を設定し、それぞれ性別2区分、年齢6区分、地域4区分、居住地域の人口レンジ2区分の分類で計96セグメントに分け、セグメントごと100人の調査対象者から回答を収集することを目標として調査（標本調査）を実施

主な調査項目

- 本籍に関する認知度及び本籍を定めることへのこだわり
- 戸籍謄本等の交付請求経験の有無
- 戸籍謄本等の交付請求方法に対するニーズ
- 戸籍謄本等の表示項目の適切性

調査結果

○自身の本籍を知っている人は約97%
 本籍と住所が「同じ」は約47%、「違う」は約53%
 特定の場所を本籍としているのは約15%
 本籍と住所を同じ場所としたのは、ライフイベントに応じて能動的に本籍を移したとするのが約65%

○戸籍謄本等を取得したことがある人は約83%
 【取得方法】本籍地の市区町村に出向いたのが約86%
 【交付請求目的】パスポート申請が約62%

○戸籍謄本等の取得方法に関するニーズ
 本籍地の市区町村で取得が約42%
 最寄りの市区町村で取得が約23%
 窓口での取得→年代が高くなるほど高い
 最寄りのコンビニでの取得→年代が若いほど高い

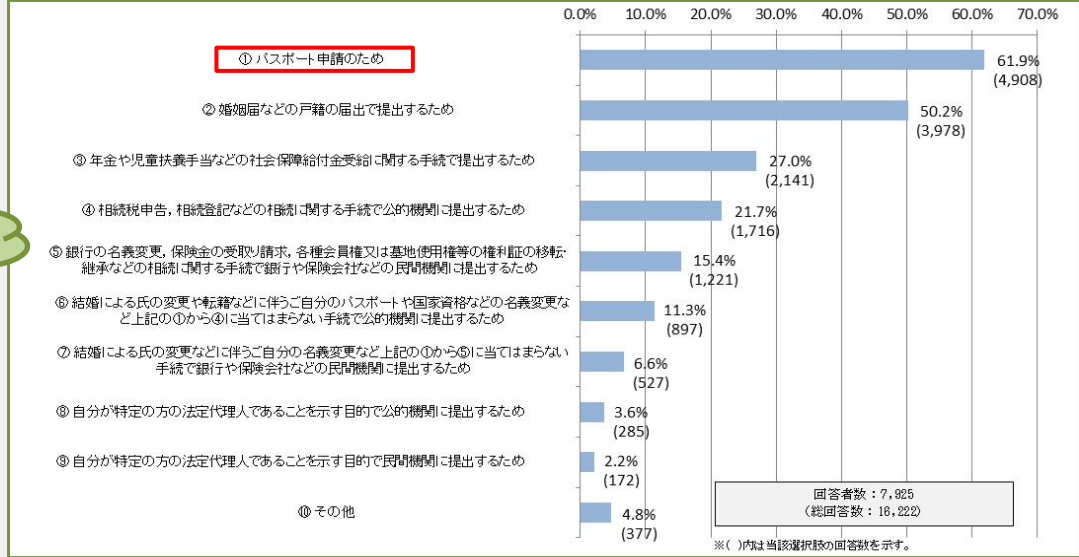
○自身の戸籍謄本等の内容について、
 「（今後）見られたくない内容がある」約17%
 「見られなくない内容はない」約48%
 →見られたくない内容は自身（約30%）より
 家族の事柄（約70%）が上回る

自宅（持家）を購入：約32%
 婚姻等による住居移転：約16%

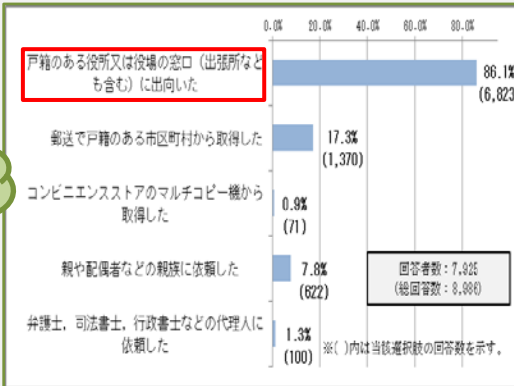
半数の回答者は
 窓口での取得を希望

国民の6人のうち
 1人は見られたくないという意識

戸籍謄本等の交付請求目的の調査結果



戸籍謄本等の交付請求方法の調査結果



戸籍謄本等の取得方法に関するニーズ結果

